

神田外語大学 一般入試新設科目

「歴史」サンプル問題

一般入試新設科目「歴史」について

歴史総合	p. 1
日本史探究 [近現代]	p. 5
世界史探究 [近現代]	p.10
正解	p.14

一般入試新設科目「歴史」について

2025(令和7)年度の一般入試(本学試験)より「英語」と「国語」の2科目型に加えて、新たに「歴史」科目を含めた3科目型を導入します。出題構成および問題構成は次のとおりです。

また、次頁よりサンプル問題(「歴史総合」「日本史探究」「世界史探究」より各大問1題ずつ)を掲載します。

出題構成(選択パターン)

- ・「歴史総合」+「日本史探究」または「歴史総合」+「世界史探究」のいずれかを選択します。
- ・「歴史総合」は共通問題です。

必須問題		選択問題
歴史総合(共通)	+	日本史探究(選択)
		世界史探究(選択)

問題構成

- ・「歴史総合」+「日本史探究(選択)」

科目	大問番号	範囲	配点	
歴史総合(共通)	大問1	近現代	20 点	*サンプル問題あり
日本史探究※	大問2	古代・中世	20 点	
	大問3	近世	20 点	
	大問4	近現代	20 点	*サンプル問題あり
	大問5		20 点	
			100 点	

- ・「歴史総合(共通)」+「世界史探究(選択)」

科目	大問番号	範囲	配点	
歴史総合(共通)	大問1	近現代	20 点	*サンプル問題あり
世界史探究※	大問2	古代・中世	20 点	
	大問3	近世	20 点	
	大問4	近現代	20 点	*サンプル問題あり
	大問5		20 点	
			100 点	

※選択問題には複数の大問がありますが、大問2～5の中で「世界史探究」と「日本史探究」を組み合わせて解答することはできません。

【問い合わせ先】
神田外語大学
アドミッション&コミュニケーション部
TEL: 043-273-2476

歴史総合

次の文章を読み、後の問い(問1～8)に答えよ。

(1) 19世紀後半以降, ヨーロッパ諸国は帝国主義政策をとるようになり, 新たな植民地の獲得に乗り出した。各国が(2) 第2次産業革命に基づく工業力や資本を背景に新たな市場や投資の場を求めたこともあり, (3) 植民地獲得競争を通して世界の分割が進んだ。同じ頃, 江戸幕府にかわって明治新政府を樹立した日本では, 天皇を中心とする中央集権的な国民国家を建設するとともに, 国境の画定や外国の技術を導入した富国強兵を進めた。

一方で, 新たに生じた国際情勢の変化を受け, 国際関係にも変化が生じた。そのきっかけの1つに(4) 日露戦争がある。次の資料は, 日露戦争が終結した2年後に日本の在仏大使が本国の外務大臣に宛てて送った報告書の一部である。

資料

フランスが日仏協約の成立を急いでいる理由は, イギリス大使が本官(日本の在仏大使)に語ったところによれば, 以下の通りである。「おそらく, (5) が英仏の間を割くためにさまざまな離間策を講じているので, フランスは将来を憂慮している。1日も早く日仏協約を締結して, 極東において安心を得たいのであろう」とのことであった。

(外務省編纂『日本外交文書』第40巻第1冊より。現代語に訳した)

ロシアが(6) 日本に敗れたことで列強間の力のバランスが揺らぎ, 新たな対立, あるいは協力といった関係が形成され, そこから生じた軋轢は, 結果として第一次世界大戦を引き起こす一因となった。

第一次世界大戦は全国民の戦争協力を必要とする総力戦となった。各国ではそれに対応する強力な政治体制が作られ, 実際に兵士や労働力として動員された人々の国民意識が高まった。このため, 大戦末期から終結後にかけて(7) 参政権を拡大する動きも見られた。また, 戦争の惨禍を繰り返さないため, (8) 史上初の国際平和機関も設立された。

【神田外語大学 一般入試「歴史」科目サンプル問題】

問1 下線部(1)に関連して、19世紀後半の日本や世界の動きについて述べた文1～4について、正しいものの組合せとして最も適当なものを、後の選択肢(ア～エ)のうちから一つ選べ。

- 1 アメリカ合衆国で、最初の大陸横断鉄道が開通した。
- 2 フランスでは、ナポレオン＝ボナパルトが皇帝に即位した。
- 3 インドでは、シパーヒーの反乱が起きた。
- 4 日本では、地租改正により年貢米での納税が義務付けられた。

ア 1・3 イ 1・4 ウ 2・3 エ 2・4

問2 下線部(2)の第2次産業革命において著しく発展した産業と、新たに使用されるようになった動力源の組合せとして最も適当なものを、次の選択肢(ア～エ)のうちから一つ選べ。

- ア 軽工業 ― 石油・電力
イ 軽工業 ― 石炭
ウ 重化学工業 ― 石油・電力
エ 重化学工業 ― 石炭

- 問3 下線部(3)に関連して、次の地図は、19世紀後半から20世紀初頭における列強の進出を示したものである。地図中の矢印ア～エのうち、イギリスの進出を示したものとして最も適当なものを一つ選べ。



ア → イ→ ウ ----→ エ →

- 問4 下線部(4)に関連して、日露戦争に関わる出来事について述べた文として誤っているものを、次の選択肢(ア～エ)のうちから一つ選べ。

- ア 社会主義者の幸徳秋水は、日露戦争に反対した。
- イ ロシアから獲得した賠償金で、官営の八幡製鉄所が建設された。
- ウ 日本の勝利は、ベトナムなどの民族運動に影響を与えた。
- エ 日露戦争中のロシアでは、血の日曜日事件が起きた。

【神田外語大学 一般入試「歴史」科目サンプル問題】

問5 資料中の空欄〔5〕に入る国の名と、その国が結んでいた協力関係との組合せとして最も適切なものを、次の選択肢(ア～エ)のうちから一つ選べ。

- ア ドイツ ― 三国同盟
- イ ドイツ ― 三国協商
- ウ ロシア ― 三国同盟
- エ ロシア ― 三国協商

問6 下線部(6)に関連して、日本と関係する次のⅠ～Ⅲの出来事が古いものから順に正しく配列されたものを、後の選択肢(ア～エ)のうちから一つ選べ。

- Ⅰ 韓国併合
- Ⅱ 関東大震災
- Ⅲ 二十一カ条の要求提出

- ア Ⅰ → Ⅱ → Ⅲ イ Ⅰ → Ⅲ → Ⅱ
- ウ Ⅲ → Ⅰ → Ⅱ エ Ⅲ → Ⅱ → Ⅰ

問7 下線部(7)に関連して、次のア～エのうち、1920年代までに国政選挙で女性参政権が実現しなかった国を一つ選べ。

- ア アメリカ合衆国 イ イギリス ウ ドイツ エ 日本

問8 下線部(8)に関連して、第一次世界大戦後に設立された国際平和機関の名称と、その提唱者の組合せとして最も適切なものを、次の選択肢(ア～エ)のうちから一つ選べ。

- ア 国際連合 ― ウィルソン
- イ 国際連合 ― ゴルバチョフ
- ウ 国際連盟 ― ウィルソン
- エ 国際連盟 ― ゴルバチョフ

日本史探究

次の文章A・Bを読み、後の問い(問1～8)に答えよ。

A 1853年、4隻の艦隊をひきいた司令長官ペリーが浦賀に来航し、開国を求めるアメリカ大統領フィルモアの国書を提出した。翌年には7隻をひきいて再来日し、日米和親条約が結ばれた。さらに、1858年には日米修好通商条約をはじめとする安政の五カ国条約が締結され、翌年からは⁽¹⁾貿易が開始されることになった。

1867年、大政奉還によって天皇を中心とする新体制への移行が模索され、薩摩藩と長州藩を中心に新政府が樹立された。新政府は戊辰戦争で旧幕府軍との戦闘を続ける一方で、⁽²⁾政治の刷新を進めた。そして、1871年には廃藩置県を断行し、中央集権体制を確立させるとともに、⁽³⁾富国強兵を目指す近代化政策を本格化させた。

他方、特権を奪われた士族や、新たな負担を課せられた民衆など、広い階層で政府の諸政策に対する不満が高まり、⁽⁴⁾各地で騒擾が頻発した。

問1 下線部(1)に関連して、幕末期の貿易とその影響について述べた文1～4について、正しいものの組合せとして最も適当なものを、後の選択肢(ア～エ)のうちから一つ選べ。

- 1 日本からの主要な輸出品は、器械製糸でつくられた生糸であった。
- 2 日本の主要な輸入品は、機械生産された毛織物・綿織物であった。
- 3 貿易開始当初は日本の輸出超過であったが、改税約書が結ばれると輸入超過に転じた。
- 4 安価な輸入品が国内の物価を下落させ、尊王攘夷運動の一因となった。

ア 1・3 イ 1・4 ウ 2・3 エ 2・4

問2 下線部(2)に関連して、政治の刷新について述べた文 X・Y と、それに関連する事項 a～d の組合せとして最も適当なものを、後の選択肢(ア～エ)のうちから一つ選べ。

X 新政府によるこの施政方針は、天皇が神々に誓う形式で出された。

Y この法令(布告)によって、アメリカの制度を参考にした政治組織が定められた。

a 五箇条の誓文 b 漸次立憲政体樹立の詔 c 政体書 d 立志社建白

ア X－a Y－c

イ X－a Y－d

ウ X－b Y－c

エ X－b Y－d

問3 下線部(3)に関連して、新政府による富国強兵策について述べた文として誤っているものを、次の選択肢(ア～エ)のうちから一つ選べ。

ア 工部省の主導により鉄道の建設が進められ、新橋・横浜間が開通した。

イ 前島密が中心となって、それまでの飛脚に代わり、郵便制度が確立された。

ウ 近代的貨幣制度の確立を目的に新貨条例が制定され、円・銭・厘の十進法が採用された。

エ 国民皆兵を目指し、徴兵告諭に基づいて、免役規定のない徴兵令が出された。

- 問4 下線部(4)に関連して、次の地図は、1870年代から80年代にかけて起きた代表的な騒擾の地域と起きた年を示したものである。この地図に関して述べた文として最も適当なものを、後の選択肢(ア～エ)のうちから一つ選べ。



- ア 地図の騒擾の中に、地租改正に反対して起きた騒動は見られない。
イ 1880年代の東日本の騒擾は、すべて物価の高騰を要因としている。
ウ 九州で起きた騒擾の中には、征韓派の元参議を擁した士族によって起こされたものがある。
エ 地図の騒擾の中には、愛国公党が結成される要因となったものがある。

B 幕末の日本は、列強から対等の条約を締結する文明国ではなく「半文明国」として扱われた。そのため、当時列強と結んだ条約には、日本にとって不平等な内容が含まれていた。

この幕末に締結を強いられた⁽⁵⁾不平等条約の改正は、新政府の重要な課題の一つであった。なかでも、日本にいる外国人に日本の法が適用できない領事裁判権を撤廃することは、国家の独立という観点からも重要な課題であった。

そのため、日本にいる外国人に適用できるような法整備が必要と考えた藩閥官僚らは、条約改正交渉を進める一方で、憲法に基づく政治体制の整備を本格化させていった。そして、1889年に⁽⁶⁾大日本帝国憲法が公布され、翌1890年には東アジアではじめて議会が開かれることになった。当初議会は、内閣と民権派の流れをくんだ民党と呼ばれる政党が、⁽⁷⁾予算案・法律案をめぐって対立していた。

しかし、⁽⁸⁾日清戦争が勃発すると、議会は政府の出す法案・予算案全てに賛成した。日清戦争後も政府と政党の提携が続き、1898年には初の政党内閣も誕生した。

問5 下線部(5)に関連して、新政府による条約改正交渉について述べた次の文Ⅰ～Ⅲについて、古いものから順に正しく配列されたものを、後の選択肢(ア～エ)のうちから一つ選べ。

- Ⅰ 法権の回復と税権の一部回復を内容とする条約がイギリスとの間で締結された。
- Ⅱ 国権論が高まるなか、井上馨の条約改正案に反対の声が上がった。
- Ⅲ 岩倉具視・大久保利通らがアメリカにわたり、条約改正の予備交渉を行った。

- ア Ⅰ → Ⅱ → Ⅲ イ Ⅱ → Ⅰ → Ⅲ
- ウ Ⅲ → Ⅱ → Ⅰ エ Ⅲ → Ⅰ → Ⅱ

問6 下線部(6)に関連して、大日本帝国憲法の制定と内容について述べた文として最も適切なものを、次の選択肢(ア～エ)のうちから一つ選べ。

- ア 憲法制定にともなって、華族制度が廃止された。
- イ 主権は統治権の総攬者である国民にあるとされた。
- ウ 軍隊の指揮・統率権である統帥権は議会にあるとされた。
- エ 憲法草案を審議するため、枢密院が設置された。

問7 下線部(7)に関連して、初期議会について述べた文として最も適切なものを、次の選択肢(ア～エ)のうちから一つ選べ。

- ア 衆議院議員の選挙権を与えられたのは、既定の額の国税を納める男性のみであった。
- イ 衆議院議員のなかには、のちに『時事新報』を創刊する中江兆民がいた。
- ウ 山県有朋内閣は、「政費節減・民力休養」を掲げて、民党と対立した。
- エ 松方正義内閣が議会を解散して総選挙を行うと、吏党が圧勝した。

問8 下線部(8)に関連して、日清戦争とその講和について述べた文として最も適切なものを、次の選択肢(ア～エ)のうちから一つ選べ。

- ア 甲申政変を鎮圧するため日本と清が朝鮮に出兵したことを契機に勃発した。
- イ 清国だけではなく、朝鮮半島の一部の都市なども、日清両軍の戦場になった。
- ウ 台湾の日本への割譲などを内容とする講和条約が、天津で結ばれた。
- エ 講和後の三国干渉によって日本は樺太の返還を迫られた。

世界史探究

次の文章A・Bを読み、後の問い(問1～8)に答えよ。

A 大恐慌を背景として、1930年代のアメリカ(アメリカ合衆国)は大きく混乱していた。「ニューディール」を唱えた民主党のフランクリン＝ローズヴェルトが大統領に就任した時代でもある。彼は (1) を通じての炉辺談話で国民に⁽²⁾自らの政策を直接説明して恐慌克服をめざした。その政策は、必ずしも成功したとは言えないが、彼の政治姿勢が国民からの支持と民主主義への信頼を勝ち取ったことは間違いないだろう。

アメリカは対外的には、孤立主義政策を採用して⁽³⁾第一次世界大戦後に築かれた国際協調関係とは一定の距離を置いていた。しかし第二次世界大戦が勃発すると、武器貸与法を制定して⁽⁴⁾イギリスへの援助を開始した。そして日本による真珠湾攻撃が発生するとアメリカも参戦し、戦争は文字通り世界大戦となった。恐慌で混乱していたアメリカ経済は、戦争に参加したことで、ようやく回復した。

問1 空欄 (1) にあてはまる語句として最も適当なものを、次の選択肢(ア～エ)のうちから一つ選べ。

ア テレビ イ 電話 ウ インターネット エ ラジオ

問2 下線部(2)に関連して、フランクリン＝ローズヴェルトが実施した政策について述べた文として誤っているものを、次の選択肢(ア～エ)のうちから一つ選べ。

- ア テネシー川流域開発公社(TVA)などの公共事業をおこした。
- イ 農業調整法(AAA)を制定して、農産物を増産して価格を引き下げた。
- ウ ラテンアメリカ諸国に対して、善隣外交を行った。
- エ 労働者の団結権などを保障したワグナー法を制定した。

問3 下線部(3)に関連して、第一次世界大戦後の国際協調関係について述べた文 1～4 について、正しいものの組合せとして最も適当なものを、後の選択肢(ア～エ)のうちから一つ選べ。

- 1 ロカルノ条約が締結され、アメリカ合衆国が国際連盟に加盟した。
- 2 ドーズ案が提示されると、フランスはルール地方から撤兵した。
- 3 不戦条約(ケロッグ＝ブリアン条約)では、国際紛争解決の手段としての戦争を禁止した。
- 4 九カ国条約が締結されて、太平洋地域の現状維持が定められた。

ア 1・3 イ 1・4 ウ 2・3 エ 2・4

問4 下線部(4)に関連して、戦間期のイギリスについて述べた文として最も適当なものを、次の選択肢(ア～エ)のうちから一つ選べ。

- ア シリアを委任統治領として獲得した。
- イ プロテスタントが多いアイルランドの自治を認めた。
- ウ 世界恐慌の際に、金本位制に復帰した。
- エ 労働党のマクドナルドが、首相となった。

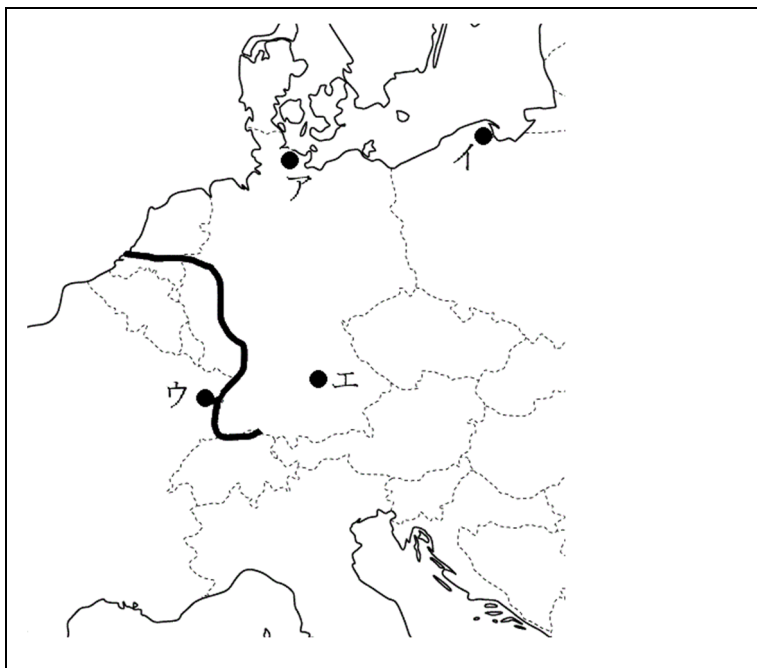
B アメリカで発生した恐慌の影響を受けたドイツでは、経済混乱の拡大以上に深刻な政治危機が発生した。この時期には、⁽⁵⁾憲法の規定を利用した少数派内閣が組織されて、議会の形骸化が進んだ。そのなかでヒトラーが率いる国民社会主義ドイツ労働者党(ナチ党)は、大衆宣伝を行って議席を伸ばし、政権を獲得した。首相となったヒトラーは、国内では独裁体制を確立させ、対外的には⁽⁶⁾第一次世界大戦で失った領土の奪還を図り、拡大主義を採った。

国際的に孤立していたドイツは、⁽⁷⁾スペイン内戦をきっかけに⁽⁸⁾イタリアと枢軸を結成した。さらに日本とも防共協定を締結し、イタリアも防共協定に参加して三国枢軸が形成された。英仏への不信感を強めたソ連と不可侵条約を結んだヒトラーが突如ポーランドに侵攻すると、英仏が対独宣戦を行って第二次世界大戦が勃発した。

問5 下線部(5)に関連して、当時の憲法を制定した都市と、その憲法の特徴を説明した文の組合せとして最も適当なものを、次の選択肢(ア～エ)のうちから一つ選べ。

- ア フランクフルト ― 社会権を定めた民主的な憲法だった。
- イ フランクフルト ― 男性普通選挙は実現したが、女性参政権は認められなかった。
- ウ ヴァイマル(ワイマール) ― 社会権を定めた民主的な憲法だった。
- エ ヴァイマル(ワイマール) ― 男性普通選挙は実現したが、女性参政権は認められなかった。

問6 下線部(6)に関連して、第一次世界大戦でドイツが失ったダンツィヒの位置として正しいものを、次の地図中のア～エのうちから一つ選べ。なお、ダンツィヒは現在の名称をグダニスクといい、冷戦期に港湾労働者を中心に自主管理労組「連帯」が結成された都市としても知られている。



(国境線は現在のものである)

【神田外語大学 一般入試「歴史」科目サンプル問題】

問7 下線部(7)のスペイン内戦について述べた文 X・Y の正誤の組合せとして最も適当なものを, 後の選択肢(ア～エ)のうちから一つ選べ。

X イギリスとフランスは不干渉政策を採用した。

Y ピカソは, 爆撃に抗議して「ゲルニカ」を描いた。

ア X — 正 Y — 正 イ X — 正 Y — 誤

ウ X — 誤 Y — 正 エ X — 誤 Y — 誤

問8 下線部(8)のイタリアについて述べた次の文 I ～Ⅲについて, 古いものから順に正しく配列されたものを, 後の選択肢(ア～エ)のうちから一つ選べ。

I エチオピアを侵略して, 併合した。

Ⅱ ムッソリーニが, 「ローマ進軍」により政権を獲得した。

Ⅲ ローマ教皇庁と, ラテラノ条約を締結した。

ア I → Ⅱ → Ⅲ イ Ⅱ → I → Ⅲ

ウ Ⅱ → Ⅲ → I エ Ⅲ → I → Ⅱ

正 解

【歴史総合】

問 1	問 2	問 3	問 4
ア	ウ	エ	イ
問 5	問 6	問 7	問 8
ア	イ	エ	ウ

【日本史探究】

問 1	問 2	問 3	問 4
ウ	ア	エ	ウ
問 5	問 6	問 7	問 8
ウ	エ	ア	イ

【世界史探究】

問 1	問 2	問 3	問 4
エ	イ	ウ	エ
問 5	問 6	問 7	問 8
ウ	イ	ア	ウ